

定年

お金の事情

甲

厚生年金の受給開始年齢が、今月から61歳に引き上げられた。4月以降に60歳で定年退職する人は、株の配当金や貸家の賃料などがある場合を除き、1年間無収入になる。

その際、年金の受け取りを60歳から前倒しする「繰り上げ受給」を選ぶこともできる。体調の問題などで定年後働けない人にとって、無収入状態を解消する手段となる。

ただし、通常の受給額より減額される上、減額率が生涯変わらないことに注意する必要がある。年金の繰り上げ受給では、受取時期を1か月早めるごとに、0.5%の割合で年金額が減る。1年(12か月)繰り上げると、0.5%×12で6%の減額となる。

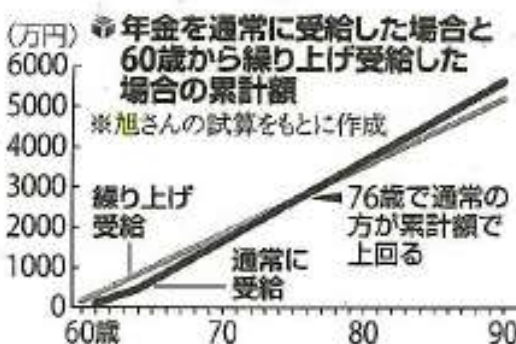
また、厚生年金を繰り上げ受給すると、65歳から受け取る基礎年金も繰り上げとなる。60歳から受け取ると5年(60か月)の繰り上げとなる。

年金受給 繰り上げは減額

基礎年金は通常より30%減る。

繰り上げ受給をすると、通常の受給と比べ、受取額の累計はどの程度違ってくるのか。社会保険労務士の旭邦雄さんに試算してもらった。

平均的な収入(年収43.2万円)の会社員男性が40年間、年金保険料を納め続けた場合、61歳から厚生年金を月約10万円受け取り、65歳から基礎年金が月約6万5500円



保険見直し 家計の助けに

一方、この男性が定年の60歳から繰り上げ受給を選ぶと、厚生年金が月約9万4000円、基礎年金が月約4万5900円となり、合わせて月約13万9900円を受け取ることになる。

70歳までの受給額の累計をみると、60歳からの繰り上げが約1846万円、通常の受給が約1672万円と繰り上げた方が有利になる。ところが、76歳で繰り上げ受給が約

2854万円、通常が約2864万円と逆転し、その後、長生きするほど差が広がっていく。厚生年金の受給開始年齢は段階的に引き上げられるが、その場合でも、76歳以降は通常の方が累計の受給額は多くなる。

「60歳の平均余命をみると、男性は82歳、女性は88歳まで生きることになる。繰り上げ受給にすると不利になる場合が多く、慎重に判断してほしい」と旭さんは話す。

では、定年で仕事を辞めて、繰り上げ受給しない場合、無収入の期間をどのようにしのげばいいのか。ファイナンシャルプランナーの中村宏さんは「退職金や貯蓄を取り崩すことになりませんが、退職を機に家計の支出も見直してくだ

さい。保険を見直すことも有効です」とアドバイスする。例えば、生命保険。医療保険は必要だが、子育て中のような多額の死亡保険金は不要となる場合が多い。「自分の葬儀などに必要なのは、20万〜300万円。それだけ

を残せば保険料を下げる事ができます」と中村さん。自動車保険も保険料の高い車両保険をやめたり、走行距離が少ないと保険料が安くなる保険に切り替えたり、いくつかのケースを試算してみる

といい。さらに、車に乗る機会が減っているなら、自家用車を手放し、タクシーやレンタカーを使うことを検討してもいいだろう。「車両本体にかかる費用に加え、税金や保険料、駐車場代などの出費がなくなり、年間で50万円以上節約できる場合もあります」と中村さんは話している。